（六）稲取・はさみ石と仲鎮山

稲取の黒根の先にあるトモロ岬から稲取寄りの約一〇〇メートルの磯には、二つの大きな石が立っています。この二つの石は、高さが約十メートル、周囲は約二十メートルある大変大きなものです。また、この二つの大きな石の間には、幅二メートルくらいの石が落ちないようにはさまっていることから「はさみ石」といわれています。

はさまっている石は、両側の大きな石と同じ種類の石ですから、どちらかの石から崩れた石がはさまったのではないかと考えられています。このように「はさみ石」は大変めずらしい石です。「はさみ石」やその周りについては次のようなお話が伝わっています。

昔、稲取と白田の村の境のあたりの海は、サザエやアワビなどの貝や、伊勢エビなどがたくさん取れたので、二つの村は村の境をめぐって争っていました。

二つの村は、大変長い間争いをしていたため、神さまが心配して天城の万二郎天狗と万三郎天狗の兄弟の天狗に「争いを鎮めてこい。」と命じました。天狗の兄弟は、両方の村人たちを天城の麓にある山に呼び、村人たちに争いをやめる話し合いをさせました。天狗たちは、両方の村人に「村境のことで争っていては、両方の村が栄えることはないぞ。」と話して聞かせました。

そこで両方の村人たちは、それぞれの村のために熱心に話し合いをしました。話し合いは、なかなかうまくは進みませんでしたが、三日目になってようやく村境に石を置いて境にすることが決まりました。

しかし、小さい石だと動いてしまい、また争いになってしまうとの話が出ました。すると、天狗たちは天城山から大きな石を二人で力を合わせて運び出し、境の石にしました。

この石は大変大きな石で、「かぐら」のような形をしていることから、村人たちは「かぐ

ら石」という名をつけました。また、二人の天狗は、村の境に「かぐら石」を置いた記念に、これも人では運べない大きな屏風のような石を二つ運び、境から稲取寄りに置きました。この石は、人が両手をあわせるように立て、その間に大きい石を落さないようにはさみました。

この石には、稲取と白田の両方の村が仲よく助けあうようにという天狗の兄弟の願いがこめられ、「はさみ石」と名をつけました。また、両方の村人たちが話し合った山を、村の争いを鎮めて仲直りをしたことから「仲鎮山」と名をつけたと伝わっています。

「はさみ石」は、天狗の兄弟が運んできたという言い伝えがある不思議な石です。いつまでも昔話とともに大切に守っていきたいものです。